

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2024

「はつらつと生きる ～大学は知の宝庫～」

第6回 11/27 (水) 13:30～15:00 報告

輝く才能を発揮するダウン症の人たち ～共生社会をめざして～

講師 内野 智之 (本学准教授) 於：図書館大セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*

本日(令和6年11月27日)、東海学院大学・東海学院大学短期大学部 公開講座 2024 「はつらつと生きる～大学は知の宝庫～」の第6回目が開催されました。

今回の講座では、本学人間関係学部子ども発達学科准教授 内野智之先生に「輝く才能を発揮するダウン症の人たち～共生社会をめざして～」と題しまして講演をしていただきました。

内野先生は神奈川県の特設支援学校に31年間勤務された経験があり、その経験をもとに

1. 津久井やまゆり園事件
2. ダウン症について
3. ダウン症当事者の紹介
4. 共生社会をめざして

の内容で講演していただきました。

最初に障害者施設である津久井やまゆり園で起きた大変痛ましい事件と、その犠牲者に対する慰霊の様子が紹介されました。

続いて、ダウン症とは常染色体異常で、主な症状として知的障害を伴い、心臓疾患等の合併症、筋肉が低緊張である為に力が入りにくく、その為に言葉が不明瞭になりやすい等について説明していただきました。

そして、ダウン症という社会生活においてハンディキャップを背負いながらも、明るく元気に活躍している本人やそのご家族についていく例を紹介していただきました。

最初にダウン症の天才書家として金澤翔子さんについて紹介していただきました。すでに内野先生も2度ほど鑑賞されたという「奇跡の風神雷神」についてその不思議さを話していただきました。さらに、彼女がお母様と一緒に力強く筆を運ぶ様子が動画にて紹介された時には会場からは感嘆の声がもれました。

次に紹介していただいた、ダウン症のイケメンと称してタレント活動をしているあべけん太さんと、先日放映されたNHKドラマ「家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった」に出演された吉田葵さんとの対談は大変微笑ましく、また、お互いに尊敬、尊重しあっている様子も伺えて、興味深く拝聴することが出来ました。

4人目として、緊張した様子でパリコレに参加する斎藤菜桜さん。パリコレ後には非常に前向きな気持ちになっている様子も紹介されました。

最後に、個性豊かに才能を発揮し、自己実現を図っているダウン症当事者を例として共生

社会について考えていくことを提起されました。

朝夕の冷え込みが身に染みる時節となりましたが、今回の講演には 30 名近くの方々が熱心に参加、ところどころに動画も取り入れられた講演は、大変わかりやすく、印象的でいつまでも記憶に残る内容でした。

予定の講演時間をすでに過ぎてしまったあとも、会場からは熱心な質問も寄せられ、時間は短く感じられました。

【講座の様子】

